

駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センターにおける 森林環境教育の取り組みについて

駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター 上席自然再生指導官（所長） 福浦 清和
自然再生指導官 堀川 栄樹

報告の背景・目的

駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センターでは、樹木博士認定会や森林づくり塾の開催の他、学校及び関係機関等への森林環境教育の支援活動を行ってきましたので、活動の紹介と今後の課題等について考察を行いました。

報告の内容

1. 樹木博士認定会について

樹木博士認定会は、樹木の名前を識別できるようになり、それをきっかけとして森林に親しんでもらうことを目的とした活動プログラムです。平成16年に樹木博士認定常設コースを設定して、参加者を募集しての定期開催や出前型等による認定会で、これまでに延べ1,734人に樹木博士の称号を授与しました。



樹木博士認定会

2. 森林づくり塾について

森林の役割や森林づくりの基礎を学び、森林内での作業を体験して技術の習得や楽しみ方等を知り、森林・林業への理解を深めることで、森林ボランティアへの意識の醸成と森林環境教育のリーダー育成等を目的として、平成19年度から塾生を募集して「森林づくり塾」を開催し、これまでに301人が修了しました。



森林づくり塾

3. 学校や関係機関等への森林環境教育の支援について

学校や関係機関等からの要請を受けて、出前型の森林環境教育の支援活動を行っており、本年度は新たに函館市本通小学校の総合的な学習の時間に学校緑地樹木園の樹木調査活動を行いました。



本通樹木園の調査

4. 課題等について

樹木博士認定会、森林づくり塾については、参加者が減少傾向にあり、特に新規の参加者が少ないため、新たな参加者を確保して活動の裾野を広げていくには、積極的な情報提供やニーズに合った内容の検討が必要です。

本通小学校への支援活動については、今後も継続していく予定であり、学校と連携・協力して、目的やニーズに合った体験活動・学習プログラム等の検討も必要です。

今後に向けて

現在取り組んでいる活動においては、スタッフ数等の関係から開催回数や規模等を拡大して展開していくことは難しい状況にあるため、情報提供や実施方法を工夫しながら内容の充実を図り、森林管理署や関係機関等と連携して、地域の特性を活かした森林環境教育を進めていきたいと考えます。

学校や教育機関においては、学習指導要領の改訂により環境教育への機運が高まることと思われるため、教育関係者等と連携して、森林環境教育について積極的にアピールしながら、持続可能な開発のための教育の視点を考慮し、学校教育の中で森林・林業を体験・学習する機会の支援を進め、出前型の森林ESDを実践していきたいと考えます。